

前線における岩屋ダムの防災操作について(速報)

(馬瀬川(東沓部地点)の水位を1.0m低減)

東シナ海から前線を伴った低気圧が平成27年12月10日～11日にかけて西日本から東日本へ進み、この前線を伴った低気圧の移動により前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、岩屋ダム流域で激しい雨に見舞われたため、防災操作を実施しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池へ流れ込む水の量が11日9時46分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため防災操作を開始し、9時58分に流入量が最大(毎秒346立方メートル)となり、毎秒102立方メートルをダムに貯留しました。

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダムの放流量	同時刻におけ るダム貯留量
岩屋ダム	90mm	平成27年12月11日 9時58分	毎秒346 m ³	毎秒 244m ³	毎秒102m ³

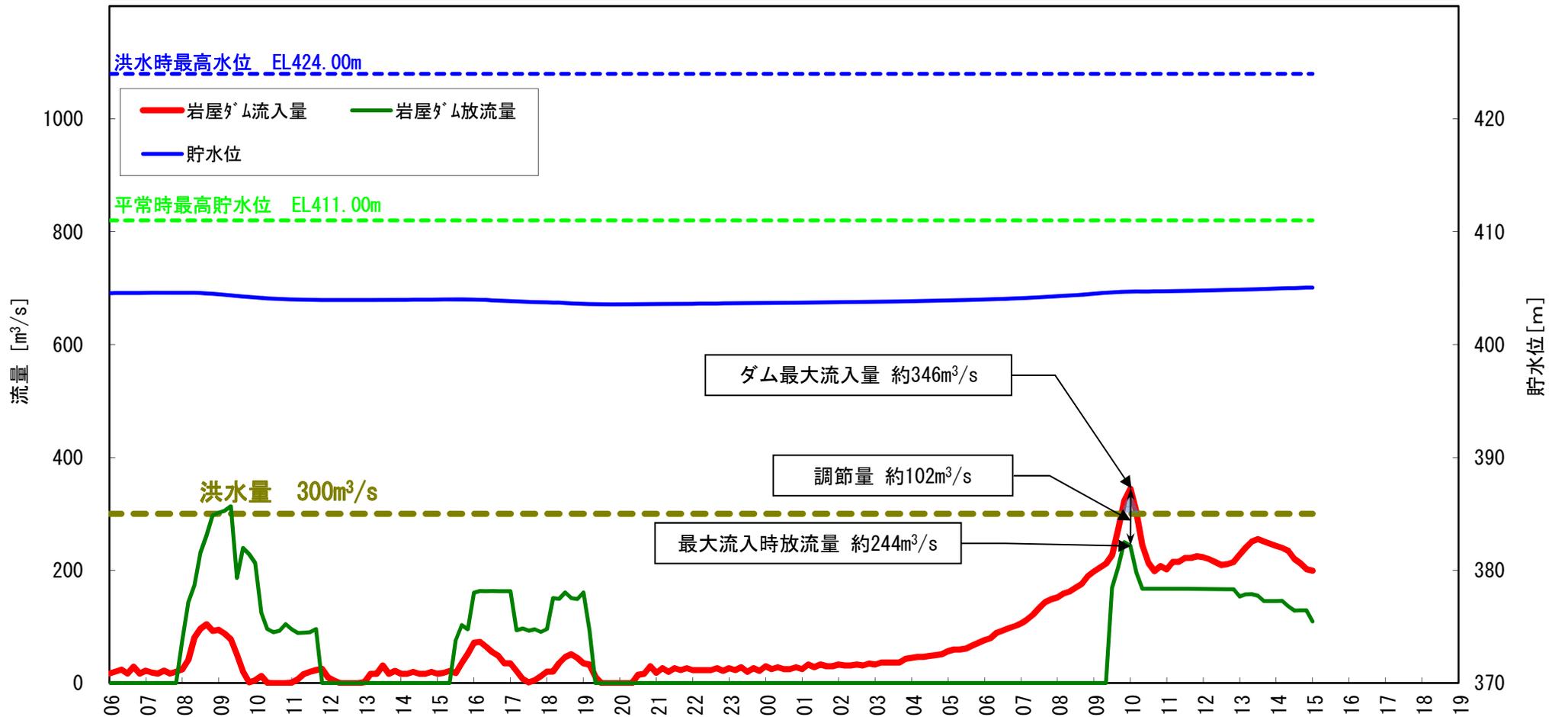
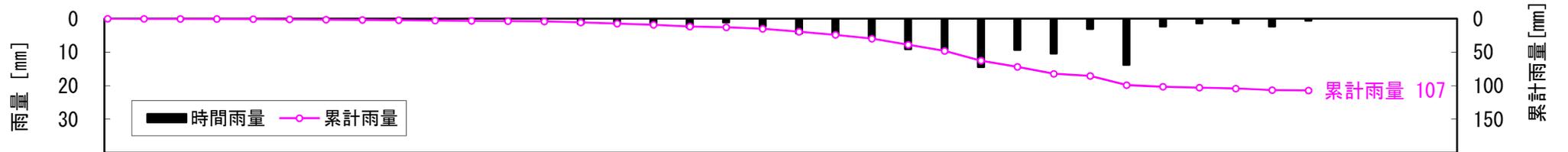
今回の防災操作により、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)では、約1.0メートルの水位低下効果があったと推定されます。

東沓部地点*の水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 東沓部地点の河川水 位	ダムがなかった場合 の同地点の最高水位	水位低減効果
平成27年12月11日 10時00分	2.6m	3.6m	1.0m

※ 東沓部地点 ダム下流約9.3km、飛騨川本線合流前約7.5kmの地点

所在地 : 下呂市金山町東沓部字前田会津 1458

岩屋ダム防災操作 [平成27年12月10日～11日 洪水]



10日

11日

岩屋ダム 水位低減効果（東沓部地点）

左岸

右岸

ダムによる水位低減効果 約1.0m

ダムがない場合の水位 約3.6m（推定）

平常時の河川状況（東沓部）



実績水位 約2.6m

※東沓部地点：岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
（住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458）